

まちづくりミーティング開催結果概要



開催テーマ 「子ども観光ガイド」について

参加者

“織都桐生”案内人の会 6名

桐生市長

傍聴者 1名

報道機関 2名

日時：令和6年7月22日（月）午前10時00分～午前11時00分

場所：桐生市重伝建地区公開活用施設（まちなか交流館）

1 開 会

2 あいさつ

3 自己紹介

4 議 題

「子ども観光ガイド」について

意見交換のポイント

- 「子ども観光ガイド」の養成方法について

5 閉 会

「“織都桐生”案内人の会」



“織都桐生”案内人の会について（H26.8設立）



一般社団法人桐生市観光物産協会が運営する観光ガイド。
数々の講習や実地研修で養成されたガイドが約50名登録されており、
お客様の要望に合わせて桐生のまちを案内。
豊富な人材により多言語ガイド（英語、中国語等）や手話・要約
筆記ガイドも可能。

桐生案内動画
公開中

YouTube



利用方法

“織都桐生”案内人の会 ガイド申込書を一般社団法人桐生市観光物産協会事務局に提出。
申込書は一般社団法人桐生市観光物産協会事務局（桐生市観光情報センター シルクル桐生内）などで入手可能。（以下のリンク先からも入手可能）



“織都桐生”案内人の会
ホームページ



（市長）
本日は開催テーマを
「子ども観光ガイドにつ
いて」とし、皆さんのご
意見を伺い、共に考え、
桐生ならではの新たな取
組を創造してまいります。

意見交換のポイント
●「子ども観光ガイド」
の養成方法について
にさせていただきます。

まずは、「“織都桐
生”案内人の会」の活動
について、説明いただき
たい。

（“織都桐生”案内人の会
金子会長より、「“織都桐
生”案内人の会の活動」に
ついて説明）

※資料参照





「子ども観光ガイド」の説明
次に、今年度実施を予定している「子ども観光ガイド」について、説明させていただきます。
※資料参照

(市長) “織都桐生”案内人の会の皆様には豊富な人材により、来桐者へ桐生の魅力を発信していただき大変ありがたい。コロナも落ち着いてきて徐々に以前のような活気が戻ってきたと思われる。市では、インバウンド対策についても注力してまいりたいと考えているため、引き続きご協力をお願いしたい。



料金表（原則として2時間のご案内）



お客様人数	料金総額	超過料金 (1時間毎)	ガイド人数
5人以下	1,000円	500円	1人
6人～10人以下	2,000円	1,000円	1人
11人～20人以下	4,000円	2,000円	2人
21人～30人以下	6,000円	3,000円	3人
31人～40人以下	8,000円	4,000円	4人
41人～50人以下	10,000円	5,000円	5人
51人～60人以下	12,000円	6,000円	6人
61人～70人以下	14,000円	7,000円	7人

※多言語（英語・中国語・ドイツ語・フランス語）、手話・要約筆記ガイドも可能

(仮) 子ども観光ガイド養成講座の実施

目 的

市内観光や地域のその他の魅力も含め一体的に紹介できる「(仮)子ども観光ガイド」の養成を目指す。また、市の伝統文化に触れ、興味を持ってもらい、地域に愛着と誇りを持ち、将来の観光ガイド育成につなげる。

対 象 者

市内在住又は在学の小学生（5・6年）、中学生（全学年）、高校生（全学年）

実施方法

回 数	年度内に5回（11月頃から）
方 法	座学と現地見学の組み合わせ
所要時間	各回2～3時間程度
講 師	“織都桐生”案内人の会、構成文化財の所有者等
受 講 後	認定証を交付

講座内容

- 令和6年度は「日本遺産」に特化した養成講座とする。
- 講座内容は「“織都桐生”案内人の会」等と協議し決定



桐生市重伝建地区公衆活用施設
(通称：まちなか交流館)



利用者数



年度	回数	対前年度		人数	対前年度	
H28	82	—		1,948	—	
H29	57	▲25		1,047	▲901	
H30	77	20		1,454	407	
R元	68	▲9		1,488	34	
R2	19	▲49		191	▲1,297	
R3	29	10		321	130	
R4	48	19		496	175	
R5	54	6		770	274	





(市長)
ご意見のとおり、私も子どもの頃から桐生のまちの良さである歴史・文化・伝統をまず知っていたらいいという環境づくりが必要であると考えている。



(市長)
この「子ども観光ガイド」の養成講座を実施するに当たり、実際にガイドを実施している皆さんからご意見やアドバイスをいただきたいと思います。



全ての学校でまちなか探検を



桐生のまちについて学ぶ機会を創出

(市長)
その点については、大人が対象の路地裏探検隊の子ども版のようなものができれば良いのかもしれない。今回の養成講座について、桐生は歴史・伝統・文化・産業・観光など色々と特色があり、あれもこれもというのには無理があるので、まずは日本遺産に特化し、重伝建地区をこれからの桐生の顔として整備を進めていきたいと考えており、子どもたちには、重伝建地区の知識を深め、子ども観光ガイドをしていただきたい。

(意見)
自分も北小のまち探検のサポートをしたが、自分の住んでいる相生町の子とは意識が全然異なっている。相生町の子については、本町などは「桐生のまちなか」という表現を使っており、まちなかに行くのは、桐生八木節まつりの時ぐらいで桐生のまちの歴史については全然知らないため、色々な学校でまち探検を実施するということが大切ではないかと考える。

(意見)
自分は本町で育ったが、残念ながら今はあまり桐生のことを教えてもらう機会がなく、案内人の会でも学び、桐生の歴史を良く知ることができたが、もっと祖父祖母などに昔の話を聞いておけば良かったと思う。この前北小3年生の重伝建地区の案内を我々が行わせていただき、自分も案内のサポートをしたが、子どもにとってもすごく良い経験になったと思った。北小は重伝建地区の近くにあり、登下校時に歴史のある街並みを通るが何も知らなければ素通りとなってしまうため、1回でも学校の授業に取り入れていただくと興味を持つ子が出てくると思う。現在北小の授業では、対象が3年生のみとなっており、4・5・6年生も対象にするなどしていただきたい。また、桐生市教育委員会が出版している「明日へ伝えたい桐生の人と心」という本が各校図書館に置いてあり、桐生のことについて誇りを持ってることが色々な分野について書いてあるため、先日小学校の担任の先生にも伝えたいが、なるべく子どもたちに読む機会を与えられれば良いと思う。

将来を見据えた子ども観光ガイドに

(意見)

この事業そのものがあまりにも重伝建に特化して進んでいるため、重伝建や日本遺産の事業ではないかと受け止められてしまう。旧桐生地区については、歴史背景などが新里・黒保根とは全く違うため、桐生市に丸ごと愛着を持っていただくとともに、将来的には新里・黒保根地区についても講座を実施するということが示している。この点については、教育委員会などと連携しながら行っていた方がいい。



(意見)

東京造形大学の学生から桐生を舞台に、影絵の作品を作り、有鄰館で発表するテーマのヒントにしたい。ため、桐生のことを教えてほしいという依頼があり、桐生の成り立ちや民話などを説明したが、そのように外から見たら桐生は大変魅力があるため、そういうところを上手く発信していければと思う。



子ども観光ガイドについて

(意見)

子ども観光ガイドについて詳細について教えていただきたい。また、本事業は今年度のみということか、または今後も継続したものとして考えているのか。



(市長)

事業については継続していかねければ意味がないと考えている。これから生まれてくる子どもたちのためにも、桐生の良さを知っていただくための取組の一つとして、子ども観光ガイドの育成ができればと考えている。

※子ども観光ガイド養成講座の概要について、担当より説明

(市長)

桐生の魅力は色々あり、子どもたちにも桐生に愛着を持っていたり、大きな目的であるため、まずは重伝建や日本遺産から始めたいというところが分かりやすい。また、将来的には桐生の文化財・地理自然など、色々な部分で子ども観光ガイドのスペシャリストを養成できればと考えている。そのことについては、皆さ々と将来的な目標を協議していきたいと思うが、まず動き出しとしては日本遺産から進めたい。子どもを育てるために、色々な分野でスペシャリストを育成できたり、観光ガイドの子どもたちの数を増やしていければ良いと考えている。子ども観光ガイドの将来像も含めて、皆さんと協議しながら進めていきたい。



(意見)

まず日本遺産に特化したところからスタートするということについては良いと考えるが、新里・黒保根地区についての講座も考えているという全体的な形が示されていないと新里・黒保根の子は関係ないということになってしまわないかが懸念される。

(市長)

子ども観光ガイド募集に関する周知の際に、その点は注視しながらスタートしていければ良いと思う。



育成のターゲットの明確化



(市長)

地域の方の「コミュニティ」と重伝建地区との「ストーリー」がマッチできていて、観光の一つのキーワードである「高付加価値の観光地」を桐生は目指せると思う。「ストーリー」として日本遺産は認められてきたものであり、この地域はこれからの観光を進める上でも非常に良い教本・教材になると思う。

一方で、間口を広げるといっても方もあるため、基本的には自分が本当にやりたい観光ガイドのスペシャリストの育成が良いと考えている。そのためには色々な知識を得て、色々な桐生を知り、その中で自分はこの部分に興味があるからそこに特化して頑張っていきたいなど、今後10年・20年など期間は分からないが、最終的には子ども観光ガイドのスペシャリストの育成ができればと考えている。まずは動き出しとして、日本遺産を中心に子ども観光ガイドをスタートさせたいので、皆さんの意見を伺いながら進めていければと考えている。



(意見)

案内人の会へのガイド依頼の約9割が重伝建地区となっており、子どもたちが旗を持ち案内をしている姿は素晴らしいものであるため、実現できたら良い。重伝建地区を案内していると、北小の子が下校時に「こんにちわ」と観光客へ挨拶をしており、「素晴らしいですね」と観光客に驚かれる。また、やはり面白いと思うのが子どもたちが普段過ごしているまちの中に、歴史のある建物があることを初めて知って驚いたり、すごいものが沢山ある中で子どもたちがどのように説明できるかが楽しみである。対象者は、KLCなどの活動から分かれるとおり、高校生になれば対応できると思われるが、核となるのは中学生ではないかと思われる。また、小学生では5・6年生であれば少し背伸びすればガイドはできるのではないかと思う。現在行っている未来創生塾でのガイドは、あまり小さい子どもでも案内が難しいが、小学校5・6年生になれば中には上手に説明できる子も出てきて、実際に自分で説明する中身も作り込んだりと熱の入った子もいたため、今回の子ども観光ガイドも募集すればある程度桐生への愛着がある子がいて、必ず同じような子を育成することができると思うが、育成のターゲットをある程度明確に絞った方が良い。

教員への研修も必要

(意見)

保護者だけではなく、教員の教育も必要となる。群馬県の東部教育事務所が東部地区に赴任した初任者教員研修で桐生市の重伝建地区を案内したことがあるが、桐生に初めて赴任した教員に対しては、桐生のまちを周るなど研修をした方がよい。近隣の太田市では、初めて太田市に赴任した教員を対象として、まちを周るフィールドワークを実施しているようである。桐生のことを理解していただくことが大切で、そうすることで子どもたちにも還元していくこともあるため、是非そのようなことも教育委員会でも検討してほしい。

(市長)

色々な部署に関わるため、部局横断的にしっかりと対応していきたいと思うが、この件は教育委員会へ伝えたい。



小学生にはサポートが必要

(意見)

未来創生塾で行っているボランティアガイド養成の際、小学生を指導する中で相当な困難があるため、それぞれの保護者がサポートしている。実施に当たっては、保護者が相当な覚悟を持ち、様々な準備を行い、場合によっては子ども以上に努力をして未来創生塾のガイド事業が成り立っているというのが現実だと思う。中高生はある程度一人でできると思うが、今回も小学生を育成するとなると必ず同じような負担が出てくる。その際、誰がサポートするかは今後考えていかなければならないが、案内人の会では中々手が回らないため、個々の子どもへのサポートは市が保護者に代わり行うなど検討しなければ、今後上手く継続していかないと思う。



(市長)

子ども観光ガイド実施について理想ばかりではなく、今後進める中で様々な課題が出てくると思うため、皆さんの意見を伺いながら、無理なく進められるのはどのような方策が必要か考えながら進めていきたい。



子ども観光ガイド育成のマスタープラン作成



(意見)
子ども観光ガイドを行うに当たり、最終的なゴールの姿をある程度考えておかなければならないと思う。例えば育成しやすいこととして、重伝建地区でいえばポイントとなる日本遺産が多くあるため、あなたは「森合資会社の専門です」、あなたは「有鄰館の専門です」など、スポット的なガイドを育成して、お客さんが来た際にそれぞれの場所の説明していただくというものであれば、そこまで難しくはないと思うが、案内人の会のようにまち全体を案内するということを目指すとなると相当な道のりとなり、実際我々も入会から数十回先輩ガイドに付いて見習い期間を経て試験を受け合格し、ようやく一人で案内ができるようになるという流れであり、大人でも大変なことであるため、中々そこまでは難しいと思う。手法は色々考えられるので、どの程度のものをいつ頃までというマスタープランを作っていたら、それに對して案内人の会がどこまでどのような形でお手伝いができるかなどが考えやすくなるため、是非ともお願いしたい。

(市長)
本日は、子ども観光ガイドについて、皆さんに理解していただき、まずは共通認識を持って方向性について合意形成をさせていただく場として開催させていただきます。これから将来のあるべき姿について一緒に検討していきたいと考えています。まずは、今回は一歩踏み出して、今後は、今後展開していく中では色々、と軌道修正があるかと思うが、元々の子ども観光ガイドを育成するという趣旨は曲げず、これからどうあるべきかというのを皆さんと考えていきたい。

若い世代向けの情報発信



(意見)
最近群大生が我々の仲間に入ったが、ITやSNSなどに詳しいため、もっと群大生に仲間に入ってもらいた。タグラムやラインなどを活用することにより、多くの若い世代に教えることができると思う。



(市長)
市ではメディアプロモーション戦略としてBS日本の芹澤さんに広報活動強化に向けた助言や提案をいただいております。BS日本が本市において実施した「ニッポンの神業ミュージアム」などをはじめ、色々な仕掛けをしていただいている。この土日に観光プロモーションとして「桐生八木節まつりin浅草」を開催したが、桐生八木節まつりのPR動画を芦澤さんがプロデュースし、桐生魅力大使の大島璃乃さん出演していただいたら、あつという間に10万回以上の再生回数となった。戦略的にSNSなど発信する仕方について、例えば行政にもノウハウがあるため、例えば特定の年代の人達に向けて発信したいなどの希望があれば、十分アドバースできると思うので、連携しながら取り組めればと思う。周知方法も昔のような広報紙やホームページのみではなく、メディアミックスで行うことが有効であると思われるので、戦略的に考えていければと思う。



(市長)
「まちなか交流館」の使用方法については、担当と相談させていただく。

(意見)
観光客がパンフレット片手にガイドなしでまちなかを歩いているところを見かけることがあり、ガイドをしてあげたいと思っても拠点がないため、この「まちなか交流館」に拠点があれば歩いている方を案内してあげることができると思われるため、私たちを上手に利用していただければと思う。



(市長)
その他、市と共創したいことがあれば伺いたい。



(市長)
子ども観光ガイド実施に当たっては、事業実施しながらも調整する点が出てくると思われるが、その際はご協力をいただきたい。

(意見)
彦部家住宅でボランティアガイドを行っており、午前中に案内をしたお客さんから昼食の場所や午後の日程について聞かれ、やはり重伝建地区をお薦めするが、その際、江戸期から昭和初期の建物がずらりと揃っていると口頭で説明するだけでも興味津々に聞いていただけたため、桐生は素晴らしい観光資源が豊富にあるところであり、子どもたちも誇りを持ってガイドができると思うので、是非この子ども観光ガイドが成功するようにしていただきたい。



(市長)
「まちなか交流館」について、色々な方々に支えられてこの地域ができていくため、案内人の会の皆さんの拠点として使っていていただくなり、様々な活用方法については、今後担当と相談しながら前向きに検討していきたいと考えている。

(意見)
この「まちなか交流館」について、これから旅行者が多く訪れると思われるので、全ての旅行者に満足いく観光案内は難しいと考えられるため、我々案内人の会が例えば土日や常駐し、必要な桐生の魅力や観光情報を伝えるというお手伝いができればと考えるがいかがか。



(市長)
今後またこのような場を設け、子ども観光ガイド養成講座の内容やガイド希望者などのマッチング方法などに、観光物産協会や皆さんと一緒に協議しながら決めていきたいので、協力をお願いしたい。



**まちなか交流館を
“織都桐生”案内人の会の拠点に**